

ホーム名：グループホーム東神田の里 けやき通り					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念目標に対する定量的視点からのレベル水準設計はないが、法人の理念を基にグループホームに対するユニット独自の理念を考え、法人理念の近くに掲示している。各職員が理念に応じたケアができるよう日々再認識をして、意識付けをしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	従来、自治会地域の年間行事や運営推進会議等を通じて地域イベント等の交流を設けるが、現状は、コロナ禍により自粛期間中である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	従来、運営推進会議で利用者の状態や日常生活についての話をし、自治会を通して地域人々の相談にのれるよう進めていたが、コロナ禍により、外部にはリモート会議の実施もしていた。現状は、参加できる人が少なく、事業所内の感染防止の為に自粛期間中である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	従来、2カ月に一度の運営推進会議で状況報告を行い、地域の行事や取り組み情報を頂きサービス向上に向けての話合いを行っているが、コロナ禍により自粛期間中である。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	市へは、運営推進会議の参加を求めているが、時間調整ができず欠席される。後日関係者へ開示する会議内容で現状を理解していただき、協力体制を構築できるよう努めている。現状はコロナ禍により会議は自粛期間中であるが、電話等の他手段で話を持ち掛け、連携をとっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、年に二回の法人内研修を行っている。研修を通じ、講義資料を誰もが目にする場所に置き、ユニット会議等で周知共有をしている。緊急性により、やむなく必要な場合は、家族に説明を行い、同意書を頂くが、実践と共に極力身体拘束をしないケアに努めている。また入居者の不意な行動により、階段落下等の危険を伴う為、玄関の会場は差し控えている。		
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修や外部研修を通じ、何が虐待になるのかの理解を深めている。軽率で不適切なグレーゾーンとなるケアを放置しないよう、更衣や入浴の際にはボディチェックを行い、虐待が見逃されることがないように職員間でタイムリーな情報交換を行っている。また、職員の精神面にも配慮し、ストレスを伴うケアがどこにあるのかを共有し、無理強いしない連携ケアを実践している。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見人制度を導入し、後見人を通じて学んだことを、記録や申し送りにて職員個々の理解を深めている。また、年に二回必要な研修では、参加した職員から得た情報を共有するが、研修資料をいつでも閲覧できる場所へ置いて、今後の支援に役立てるよう準備している。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前には、管理者や関係者が面談を行い十分な説明を行っている。改定等の際は、書面等で報告を行い、不明な点は、随時電話や面会時に相談を受け、理解・納得を図っている。</p>		
10	<p>6</p> <p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族が来訪された際や、電話での対応時、関係者職員は家族の意見や要望に極力応じられるよう意見交換・情報共有を日々行っている。内容によっては、直接外部者や管理者へお話しいただき、得た情報を関係者職員で周知共有し、まとめた意見を運営に投げかけ反映させている。事業所内でのバーチャルチームは構成できていないが、タイムリーに伝達するためにSNSの利用も一部活用している。</p>		
11	<p>7</p> <p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>運営に必要なことをユニット会議等を通じ、リーダー会議で提案できるよう努めている。また人員不足やコロナ禍等、環境的に体制が整わず、管理者と職員個々の面談は予定から外れている。必要ごとに対してランダムに面談を行なっている。</p>		
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>極力職員へは、事情に合わせた勤務体制を置き、ストレスのない環境になるよう努めている。また、内部研修での学習や資格支援制度の導入により、就業しながら知識や技術を学び、やりがいや向上心を養いながら給料のベースアップにも繋がる環境体制になるよう努めている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内の年間研修計画に基づき、各ユニットリーダーや専門職がテーマに沿った内容を勉強し、OJTを実践している。また、リーダーは各職員が内外研修を受講するにあたり、受講頻度が偏らないようシフト調整を行い、皆が均等にトレーニングできるよう配慮している。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>コロナ禍により親睦会等の交流は控えているが、内部研修や外部研修から他施設や専門分野と接点を持ち、ワークを通じて意見交換・情報交換を行い、サービスの質が上がるよう努めている。</p>		

## II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前には面談を行い、本人や関係者を通じてコミュニケーションを図り、出来る限りの意向を聞き、要望や不安点等得たニーズに対し、真摯に向き合い答えている。寄り添うことで安心が得られるよう努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>インテーク等初段階では、抱えている事情や情報を出来るだけ細かに収集している。また、家族との信頼を気付く為、家族から得た課題やニーズに対する説明や状況に応じたサービスの説明都度行うようにしている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>利用前のインテーク初段階では、これまでの本人の経緯や家族の関わり方を双方から聞き取り、今できる必要としているサービスを利用可能な限り提供している。現状、コロナ禍により、マッサージ等他のサービスの利用は自粛している。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者の病気を理解し介護することは必要だが、共に暮らす一人の「人」とした視点を持ち、共に過ごしあう関係づくりに努めている。日常では、これまで多岐にわたる人生観から家事の知恵を頂くなど、本人の意思を尊重し、人としての存在価値を高め、いきがいをもっていただけるようにしている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>コロナ禍により家族とのリモート面会を取り入れたが、本人の状態や家族の都合上、実施に至るケースが少ない。代わりに毎月郵送する写真入りの生活状況のお知らせと、定期に行う本人や職員との通話により理解し合い、本人を支えていくよう努めている。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>コロナ禍により、家族等の面会にはiPadのテレビ電話を導入しているが、家族の都合や認知症による事情から、なかなか実施に至らない。代わりに、本人と接触しない窓越し面会や動画配信を行い馴染みの人との関係性を積み上げている。また、外食やコンサート等外出できない代わりに文通交換をして、関係性が途切れないよう支援している。</p>		
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>進行性の認知症により、物事理解度にあ差があるが、職員が介入し、利用者の手となり足となり目となり心となることで、それぞれに役割ができ、利用者同士が仲良く支え合える環境を提供している。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービスが終了しても、必要ごとがあれば応じることを伝えており、できるだけ必要に応じた支援ができるよう所定の場所に記録を保管している。また、外出先等で接点があった場合、許される範囲で近況共有し、互いの理解を深めている。同じ地域の住民として、必要可能な限り、これまでと変わらぬ関わりを保てるよう努めている。</p>		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>普段から入居者一人ひとりの距離を大切に、やさしく触れながら本人の意向を聞いている。気づきがあれば気づきノートへ記入し、希望や意向の把握に努めている。意思疎通が困難な方には、これまで生きてきた背景から本人が何をしてほしいかを検証し、ADLに合わせた支援援助ができるよう努めている。</p>		
24		<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>これまでの本人情報は、ご家族や当人から収集するが、家族からの聞き取りの際は、本人の背景を知ることが、認知症ケアにおいて、生活の質を上げるための必要不可欠なものであることを説明し、これまでの把握に努めている。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>毎日、一人ひとりの状態を日常生活援助から把握している。個人記録ノートや一括管理シート等の記録活用や、タイムリーな情報交換ツールによるSNSも取り入れ現状把握に努めている。</p>		
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>毎月のユニット会議でカンファレンスを行い、新たな情報は各関係者との顔合わせ時に伝え、サービス反映に努めている。早急に必要な情報は、SNSで共有し、いつでも介護計画に落とし込めるように努めている。介護計画へのシステム化を模索検討中である。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の個人の様子をパソコンやノートに記録し、SNSを活用して、より細やかな個別情報を職員間で共有している。定例のケアカンファレンスでは、モニタリングを行いながら介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々にも生じるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>従来行われてきた外出や外食等は、コロナ禍により自粛している。収束後は、社会との関りや周囲との繋がりを持ち、個性・独自性を重視した可能な限りの新規サービスができるよう、本人や家族とのコミュニケーションを大切にしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>コロナ禍により、地域資源の活用は自粛しているが、収束後は、生きがいをもって楽しむことができるよう、手工芸や家事に取り組んでいただき、今後のつながりに生かせるようにしている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>母体である病院と、提携している訪問歯科にて毎月定期的に往診が行われている。また、状態により専門性が必要である場合は、主治医に紹介状を準備していただく等、かかりつけ医を通じて適切な医療がスムーズに受けられるよう支援している。また24時間体制で訪問看護と連携し、サポートできるようにしている。</p>		

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>訪問看護師には、一括管理シートやバイタルチェック表、水分チェック表等の各記録や日常生活援助の状況を訪問看護の日に伝え、入居者がより適切なケアを受けられるよう協働している。早急な対応が必要な際は、訪問看護の24時間サポートで指示を仰ぎ、支援している。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院後は、定期に家族へ電話をし、本人の状態と家族の意向を聞きとり、相互理解に努めている。医療機関とは、病状や退院時期についての意見交換を行い、退院が見込まれれば、カンファレンスもしくは話し合いを行い、帰所後のケアがスムーズに実践できるよう努めている。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化や終末期については、契約時に説明を行い、今後の支援策定に努めている。また、家族への定期電話では、生活の様子を伝えているが、最終的な意向があれば、各関係者へ報告し協働理解を深めている。家族の要望に変化があれば都度サービス内容の更新を行い、家族の意見を尊重している。最期前には、母体の主治医から家族へ、インフォームドコンセントを行っている。</p>		
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>研修にて、心肺蘇生やAEDの技術と知識を学んでいる。これに伴い、急変時や事故発生時の緊急マニュアルを職員誰もが目につく場所に置き、応急手当や初期対応の実践力を身に付けている。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回の消防訓練を実施しており、法人内に災害委員会を設置し、運営推進会議を通じて、自治会や市役所の方々、地域との協力体制を築いている。自治会からは夜間職員の人員不足や指定避難所への送迎手段を懸念されており、他施設との協働も要されるが、迅速安全に避難できるよう、隣接(同法人)のグループホームや特養との協働施策を検討している。水災や震災訓練においては、準備段階である。</p>		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	<p>14</p> <p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>利用者一人ひとりに尊厳を持った対応を心がけている。親しみをもってオープンに走らず、場面に応じて本人のプライバシーを損ねないような言葉かけ等対応をしている。</p>		
37	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>普段から楽しく明るい雰囲気づくりに努め、利用者が自分の意思で生きがいを持った日常を送れるよう支援している。本人の強みや今必要なことひとつひとつ確認しながら思いや希望を引き出すよう努めている。</p>		
38	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>極力利用者一人ひとりの意向やペースを乱さないよう、利用者中心の生活に重きを置き、本人の希望にそった生活リズムで過ごせるよう支援している。例えば、就寝時間は職員の都合にならないよう、居室やフロアでテレビを観ていただいたり、活動支援においては、職員本位にならないよう、本人がこうしたいという意思・価値を優先し、本人本位の生活を送れる希望にそった支援をしている。</p>		
39	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>馴染みのものがある方には、例えば整容品やボディーローション、髪留め等のおしゃれ用品を、家族に持参していただいている。また、おしゃれ着を持ってきていただき、充実した日を過ごせるよう支援している。家族との協働が密にとれない方は、職員との会話を通じて既存の衣類を職員と一緒に選ぶ等、本人が孤立しないようサポートし、本人が納得いく身だしなみやおしゃれができる支援をしている。</p>		
40	<p>15</p> <p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>職員と利用者が行う手作り食や手作りおやつは、コロナ禍により自粛している。</p>		
41	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>バイタルチェック表と水分排泄チェック表を通じて、普段の食事と水分量を把握している。母体である病院の主治医や訪問看護と連携をとり、一人ひとりの状態に応じて食べる量を調整したり、食事形態を変えてたりして提供している。ミキサー食の方については提供時、献立をひとつひとつ説明し、おいしく食べていただけるよう支援をしている。</p>		
42	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>食後に、一人ひとりに声掛けを行い、口腔内ケアを行っている。訪問歯科にて口腔内清掃や義歯のチェックを行い、毎回結果報告とアドバイスを受け、口腔内管理をしている。</p>		
43	<p>16</p> <p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>水分排泄チェック表で一人ひとりの排泄リズムを把握し、本人の自尊心を損ねない支援をおこなっている。介助前の声掛けでは、場所をわきまえ傷つけないよう働きかけている。排泄に対して抵抗なく行えるようにしている。</p>		

44	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>毎日二回の体操他、家族との協働で、乳酸菌物や野菜ジュースを提供して腸内が健康に保てるよう努めている。それでも不十分な時は、主治医や訪問看護師へ働きかけ、個々に応じた便秘予防に取り組んでいる。</p>		
45 17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴日には、事前に声掛けを行い本人の状態を見極めながら希望に応じた支援援助をしている。入浴中はコミュニケーションに心がけ、心身のコンディションを確認しながら、本人が楽しく利用できるよう努めている。本人の気分がすぐれない時は、無理強いをせず、足湯でリラックスしていただいている。</p>		

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの生活習慣を尊重した支援に努めている。昼夜逆転等で生活リズムが崩れている時以外は、眠たくなるまでフロアや居室で好きなテレビや録画を観ていただいたり、また職員と会話をしたり、その時々状況に応じてながら、就寝のタイミングを見極め、納得のいくタイミングで気持ちよく眠れるよう支援している。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬情を利用者個人情報ファイルに綴じ、必要な時にいつでも参照できるようにしている。不普段から、申し送りやカンファレンス時に薬の理解を深めるようにしている。何か症状により変化した場合は、タイムリーに周知共有している。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>入居前の情報や日々重ねる家族や本人との話から、利用者それぞれの多岐にわたる生活歴を収集している。利用者一人ひとりの独自性を活かし、いきいきした日々を提供できるよう支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>現状、コロナ収束を待ち外出支援を避けている。ユニット内で本人の生活スタイルに寄り添う支援を行っている。</p>	
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人がお金を持つと紛失する危険性があるの事業所で管理をしている。家族へは、面会時に必要なものを揃えていただき協力を得ている。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>携帯電話が使える方は、利用して頂き、親族や知人の方といつでも対話ができるよう支援している。手紙のやり取りについては、家族了承のもと、身内や知人の方からのお便りを一緒に読ませて頂いたり、皆様へ暑中見舞い、年賀状等を送る等、大切な人との繋がりを保てるよう支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間では、必要な場所に表示を施し、目で見てわかりやすくしたり、四季に合わせた飾り付けをしたり、少しでも季節を感じていただけるよう支援している。また、空調管理にて身心共に快適になるよう配慮し、テレビを視聴する際には字幕を入れたり、音楽鑑賞をする時には、映像でも楽しめるDVDを流したりと、耳が聞こえない方や難聴の方にも楽しめるよう工夫している。</p>	
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになったり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>利用者同士が集う共用空間では、職員が介入し、コミュニケーションを図りながら、誰もが緊張無く楽しい輪へ、明るい環境になるよう努めている。また、設備構造上、共用空間で独りの時間を十二分に使うことは難しいが、個としての自主性を尊重し、フロアや居室を自由に選択していただき、好きな場所で趣味嗜好が楽しめるよう、独自のペースでストレス無く過ごせるよう支援している。</p>		



54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族に協力してもらい、居室には日めくりカレンダーや思い出の写真、生け花を置く等、本人が好まれる彩り豊かな装飾が施されている。また、多岐に使用していた家具や趣味である文庫本を揃え、馴染みのあるおしゃれな品も並べている。空気が乾燥する時期は、加湿器を置く等、その時々本人の状態や環境の変化に適応した環境づくりをしている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>フロア内には利用者が混乱せず、安全に生活できるように手摺を設置したり、物事を認識できるように用途に合わせた表示を施し、自立心を損ねず、安心して生活を送れるよう工夫している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない